

トムラウシ山 (2141m) 日本百名山

2019 年 8 月 31 日 Shiba

北海道の百名山でも困難さ筆頭のトムラウシ山と幌尻岳。合わせ業での挑戦であるが、まずはトムラウシ山から。北九州から関東地方まで、秋雨前線の影響で天候不順が続く中、前線から離れている幸運さの中での北海道入りである。スカイマークエアを利用し、新千歳へ。さらにレンタカーで、トムラウシ短縮コース登山口に近い国民宿舎東大雪荘へ。今回の登山コースは日帰りの超ロングコース。我々にとってどれだけ早くスタートできるかも1つの勝負所であるが、下山も夜になるのを覚悟して2連泊で予定を組んだ。

当日は 3:00 に起床。おにぎり二つの朝食で腹ごしらえをして、車で登山口へ向かう。途中は砂利道だが良く整備されていて凸凹はほとんどない。と言っても所々にくぼみがあり水が溜まっているため、そこを避けて通り抜けなければならない所もある。4:00 頃トムラウシ短縮コース登山口に到着。40 台は停められそうな駐車スペースとバイオトイレがある。外は靄がかかり霧雨状態だがカッパを着る程ではない。事前に、途中は泥んこ状態のところがあり、スパッツは必須と言うことを聞いていたのでスパッツを着用し 4:30 分にスタート。

登山道入口には入林届けの帳面があり、氏名、人数、登山コース、入・出林時間を記入するようになっている。登山届けについては最寄の警察に提出するようと言うような説明書きがあった。

最初は緩やかな登り道から始まる。所々にぬかるみがあるが、多くは「Ⅱ」字状の長さ 1m 程の木道が置いてある。道の両側には熊笹が茂っており、ぬかるみを避けるためにその笹を踏みつけながら歩くこともあるが、ヌルットしたすべりやすい土質のため転倒の危険性も高い。ぬかるんだ道もカムイ天まで、まだましである。これから先は木道も少なくなり、避けがたいぬかるみもひどくなる一方で靴紐まで泥んこになりながら歩く羽目に。そのうち、急な下りがあり沢に出た所がコマドリ沢分岐である。ついでに沢の流れに靴を突っ込み、ドロ汚れをきれいにしてすっきりした気持ちで再登攀。ここからの昇り道は水掃けのよさそうな土質で一般によくある山道になる。また樹林帯を抜けたので本来なら景色を楽しめるはずであるがガスのため視界は 100m 程しかない。

8:45 頃に前トム平に着いたがガスのため視界もせいぜい 100~200m 程で景色はまったく分からない。霧雨状態は相変わらずであったが体も冷えてきたのでここでカッパを着用し、エネルギー補給をする。今日は長丁場なので、下山時間のことも考慮し、登頂時間目標を 11:00、リミットを 11:30 としてメンバーで確認しあう。

トムラウシ公園に入ってもガスの状況は変わらなかったが、山頂下のトムラウシ分岐辺りからガスが切れた。わずかに青空がのぞく場面もある。山頂から下ってくる人が「待っているとガスの



山頂直下のトムラウシ分岐

切れ間から景観が見えることがありますよ」と声をかけてくれる。最後の岩場を登り詰め 11:30 頃山頂に着いたが、山頂はガスで覆われたまま。しばらく待っていると、ガスの切れ間が移動してくる時があり、その一瞬だけ視界が広がり人々の歓喜が上がる。しかしカメラのスイッチ入れる間もなくシャッターチャンスを逃してしまう。山頂で粘ること 20 分程の間に何回かシャッターチャンスが巡ってきたが、残念ながらそのチャンスを巧く生かせなかった。

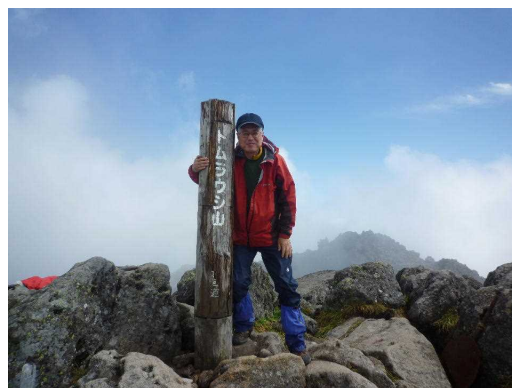
登頂時にはガスのため景色が良く分からなかったが、下山時にはガスの切れ間が広がり、大いに景観を楽しむことが出来るようになった。目の前に広がるトムラウシ公園は空中庭園そのものだ。ハイ松の中に岩稜が散りばめられ、どちらを向いてもその自然景観を堪能でき、また見にきたいという思いにさせられる。また、登山口に下山できたのは 17:50 となったが何とかランプを使わずに下山できた事は我々にとって満足のいくものだった。

下山中のトムラウシ公園中ほどで 70~80 ㍎ぐらい思われるザックを背負った 2 人組みの方と出会った。縦走ですか尋ねると「いや、携帯トイレ小屋の利用調査で、山頂直下の南沼でテント泊する」と言う。ボランティアで携帯トイレ小屋の資金集めをし、その設置許可を得るための利用調査らしい。先ほど通り過ぎたところに小さな小屋を 2 つ程を見かけたが、それらはこの人たちの努力によるものだったのだと感心させられた。

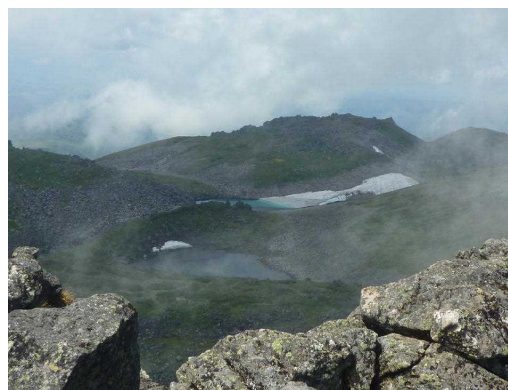
◆メンバー：K、Shiba、他 1 人

◆コース：トムラウシ短縮コース登山口 4:30~カムイ天上~コマドリ沢出合~前トム平~トムラウシ公園~トムラウシ山 11:30-11:50~トムラウシ公園~コマドリ沢出合~トムラウシ短縮コース登山口 17:50

◆所要時間／歩行時間：13 時間 20 分／11 時間 50 分



トムラウシ山頂の標柱と筆者



トムラウシ山頂から旭岳方面を望む



雪溪の残るトムラウシ公園入口付近